

教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 平成23年5月24日(火)午後2時30分～午後4時00分
- 2 場 所 伊東市役所 5階 小会議室
- 3 出席者 1番 田中 智海君 2番 杉田 純子君
3番 佐藤 潤一君 4番 上村 昌延君
5番 佐々木 誠君
- 4 参 与 教育次長 鶴田政利 参事兼幼児教育課長 大川浩
教育総務課長 稲葉繁太郎 学校教育課長 大川幸男
生涯学習課長 萩原博
- 5 書 記 教育総務課長補佐 村上千明
- 6 会議の経過

委員長：ただ今から、伊東市教育委員会5月定例会を開会します。それでは、はじめに、教育長の報告をお願いします。

教育長：「5月教育委員会教育長報告事項資料」に基づき次の事項について報告がされた。

- 4月20日 女性連盟総会
- 21日 東部社会教育振興協議会理事会
- 22日 静岡県都市教育長協議会総会
- 25日 教頭会
就学援助認定会
- 26日 伊東警察署交通規制審議会
- 5月 5日 小中学生将棋大会
- 6日 伊東市立幼稚園教育研究会総会
- 9日 幼稚園園長会
主幹教諭・教務主任・教科等指導員・研究員合同研修会
- 10日 市長と教育委員との懇談会
- 12日 伊東市手をつなぐ育成会総会
- 13日 市議会臨時会

伊東市立幼稚園 P T A 連絡会総会

15日 第27回空太郎会総会

16日 校長会

20日 東部社会教育振興協議会総会

22日 第39回 J C 旗争奪ジュニアサッカー大会

23日 生涯学習担当者連絡会

その他

(1) 緊急津波避難訓練 5月21日(土)

(2) 伊東市史 - 資料編 近世 - 平成23年3月31日発行

委員長：ありがとうございました。ただ今の教育長報告について何か質問はありますか。

(意見なし)

委員長：それでは本日の議事に入ります。

委員長：報告事項です。

教報第3号「平成23年度伊東市育英奨学生選考結果について」です。説明をお願いします。

(稲葉教育総務課長から資料に沿って説明)

(高校生等 給付1名 貸与3名、大学生等 給付1名 貸与4名)

委員長：ありがとうございました。これにつきましてご質問がありましたらお願いします。

委員：選考結果については通知はすでにしておりますか。

稲葉教育総務課長：郵送で通知しております。

委員長：大学生等の方が募集予定より少なかったということですが、少なくなっているのか、それとも今年たまたま少なかったのか、その辺はどうでしょうか。

稲葉教育総務課長：貸与については卒業をして1年の猶予の後、返還をしなければなりませんので経済状況、或いは就職状況が厳しい中で返さなければならぬということ的前提に申し込みを見送るのかなという気はしております。

委員長：そうすると段々必要がないのではないかという声も出てきそうですが。

稲葉教育総務課長：もちろん学生生活をおくるについて奨学金があった方が学生生活をおくりやすいですが、その後の就職難、果たして就職できるのだろうかという不安とか現状からするとなかなか奨学金の申し込みに踏み切れない厳しい状況が背景としてあるのではないかと思います。

委員長：わかりました。これも今の時勢を表しているのかなと思います。ほかに何かございますか。

(意見なし)

委員長：よろしいですか。それでは教報第3号「平成23年度伊東市育英奨学生選考結果について」は承知させていただきます。

委員長：次は教報第4号「平成23年度伊東市入学時貸付金選考結果について」です。説明をお願いします。

(稲葉教育総務課長から資料に沿って説明)

(高校生等 0名、大学生等 2名)

委員長：ありがとうございました。大分枠はある中ですが、結果はこれしかなかったということで、希望する方には全員貸付することができたということでしょうか。これにつきまして何かご質問はありますか。

委員長：この23年までの3年間でこの制度は切れてしまうのですね。継続するための手続きとしては何かあるのですか。

鶴田教育次長：規則の附則の中で3年間という決めがあります。延長するようであれば、予算的な見とおしと規則の変更手続きが必要になります。

委員長：せっかくこの制度があるのですが、活かされない形になってしまうことが残念だなという気はします。これからのことについてはもう少し議論が必要だなと思います。とりあえず23年度この制度は終わりになるということですね。

鶴田教育次長：基本的に延長していくかどうかは早急に方向性を詰めようかと思いますが、教育委員の方の意見もいただければよろしいかと思います。また、市長の発案でもありましたので市長の考え方も伺う必要があるかと思います。

委員：もし予算を取っておくことができれば、この制度は残しておいた方が良くと思います。今借り入れ等になってくると銀行等も育英資金のようなものも貸付を始めました。そういう意味では、審査も無く借りられますので減ったのかなとも思います。ただ、色々な保護者がいることも確かで、銀行に話せない方々も中にはいるのではないかと、そうすると全ての門を閉めてしまうと子どもたちの将来も閉じてしまうことになりますから、小額であってもこういう貸付もあるというものを置いておいた方が良くという私の個人的な意見です。後は皆さんで検討してもらおうしかないと思います。

委員：私も結論から言うと残しておいた方が良くと思います。というのは来年の入学生の親の経済状況が今より悪化している予想がかなり高いと思います。そういった時に今ある制度を無くすことはいかがなものか、行政としてそういった子どもにも受け入れ態勢がありますということは、予算が付けば残しておいていただきたいと思います。後、前々から言っていますが、いかに早く保護者に結果を伝えることができるか、現に今この子たちは大学に通っている訳です。本当は入学時に必要なお金なので。

委員長：今後の社会状況が好転していく要素が無い、悪化していく方が多いだろうと見込まれる時に、今年少ないからといって無くすかということは本来の貸付金の趣旨からすると外れてはいないかなというのが全員の意見だと思います。そういう意味で教育委員の希望として残してもらいたいと思いますが教育長いかがですか。

教育長：3年間という期限付きだったのですけれど、ここへ来て経済的な情勢、来年度に向けてもっと悪くなる可能性もあるということで先日もこのことで少し検討したところですができれば残す方向で考えを進めていくべきだと思います。

委員：利用する人がいなければそれはそれでいいのではないですか。利用しなくても済んだということはそれで良かったということで制度だけは残して置く必要があるのではないかと思います。

委員長：希望としてはありますが、市長の提言された素晴らしい制度を今後も活用していく方向で考えたいし、勉強をする意欲のある人たちに機会を与えることは良いことだと思いますので、教育委員の総意ということで今後も継続

をしてもらいたいと思います。枠の大小はあるかもしれませんが。

委員：今回高校生はいませんでしたけれど、枠としては高校生・大学生それぞれ10名の450万円の予算でしたが、枠を5名とか7名にするとか、高校が0であれば大学の枠を大きくするだとかは、どうなのでしょう。

委員：流用できるシステムにしてあげれば一番良いと思います。

鶴田教育次長：貸付金の中での予算費目は同じなので、大学、高校の枠を融通しあうことは可能です。ただし募集のときにおよそ10人ずつとなっております。したがって委員の言うようにたとえば人数を減らして5人ずつの募集にして予算の確保の願いはできるかと思います。そうした場合予算は半分になります。

委員長：枠の大小はともかくとしてそういう希望のある方には貸し付けできるような形は是非残していただきたいと思います。もう一つは貸付の時期を、本当に必要な時に貸付できないことが、折角の制度なんですけれど時期をスピーディにすれば役に立つ部分があるかと思います。

委員長：よろしいですか。それでは教報第4号「平成23年度伊東市入学時貸付金選考結果について」は承知させていただきます。

委員長：それではその他に入りたいと思います。「伊東市立南中学校校舎耐震補強工事概要について」です。説明をお願いします。

（稲葉教育総務課長から資料に沿って説明）

委員長：ありがとうございました。引き続き「伊東市立富戸幼稚園耐震補強工事概要について」も説明をお願いします。

（大川参事兼幼児教育課長から資料に沿って説明）

委員長：ありがとうございました。それでは併せてこの中で質問等がございますか。

委員長：工事中の振動とか音とかは授業に支障が無い形で進められるのでしょうか。富戸幼稚園は工事期間中は富戸小に行くようですので関係ないのですが、南中は教室を使ったままで工事を行う訳ですね。

稲葉教育総務課長：いくつか耐震の工事をやってきたのですが、工事の振動や音が大きすぎて授業ができないということはないです。

委員長：子どもたちに我慢を強いることは無いと見てよろしいでしょうか。教育の妨げにならない形で、今までも同じような形で進めてきたということで了解してよろしいですか。

稲葉教育総務課長：振動や音が全く出ないということは無いと思いますが、過去に工事によって授業が中止になったことはありません。

鶴田教育次長：基本的には今言ったK型になる鉄骨の部材を窓の内側につけるとというのが工事の基本になります。これをつけるところに教室があるかということ、教室を動かしながらやる形もありますので基本的に工事をしているところに教室は無いと思います。学校側と相談をして支障がない形で工事を進めます。

委員長：当然配慮はしていると思いますが。その際に例えば周りに養生のシートが回ってしまう状態になるのかな、窓を開けることもできなくて暑くなるなど、その辺のところも配慮していただいているとは思いますが。

鶴田教育次長：工期も3期に分けてやるというのは、いっぺんに、全面を実施しないで、校舎をいくつかに分けて、工事している間に教室を動かしながら進めていく事を考えています。

委員長：結構大きな工事のようですので期間も長いですし支障が出ない方法でお願いします。もちろん耐震のために必要な工事ですので、致しかたないですし、どこか違う場所に動くこともできない大きさですし、要するにその辺の配慮は十分していただいていると思いますが、念のためにお聞きした次第です。ありがとうございました。

委員長：その他耐震工事について質問がありますか。

(質問なし)

委員長：次に「市議会臨時会の報告について」です。説明をお願いします。

(鶴田教育次長より資料に沿って説明)

委員長：ありがとうございました。これにつきましての質問がありますか。

(意見なし)

大川参事兼幼児教育課長：その他のその他で一つ報告をさせていただきます。新年度の職員採用と、幼稚園の配置の考え方についてお伝えしておきます。24年度の新規採用職員につきましては幼稚園教諭と、保育士を採用していく予

定です。職員採用と共に幼稚園については教育上望ましい集団ができるような配置を進めて行きたいと考えております。具体的な日程等については未定ではありますが伊東幼稚園と湯川分園について研究を進めていきますので委員の皆様にも周知していきたくと考えております。ちなみに5月1日現在の両園の園児数ですが伊東幼稚園が3歳児が13人、湯川分園が6人、4歳児が14人、17人、5歳児が12人、10人、両園合わせて72人となっております。これらを両方合併せましてもクラス数としては1つずつという形になりますので、今後あり方の検討を進めて行きますので報告させていただきます。

鶴田教育次長：補足させていただきますが、採用人数につきましては幼稚園教諭4人程度と、市長部局で保育士1人程度の採用をお願いしております。幼稚園の配置ですけれど行政改革という意味ではなくて、集団活動ができる保育環境を作りたいということを一番念頭に置いております。これに向けて当面伊東幼稚園と湯川分園を検討していきたくという話です。今後同様な園がありますので、また、検討会等を開きまして、幼稚園のあり方についての教育問題懇話会の答申も踏まえて、健全な保育環境を作っていく形をどう取るのかのを具体化していきたくいので、今回参事の方から報告をさせていただいております。

委員長：ありがとうございました。そういう言葉が具体的な形で出てきたのは内々での話ではありますが初めてです。健全な教育環境という方針はしっかり持った上で説明をして、しっかり保護者等の了解を得られるような形を作っていってもらいたいと思います。

教育長：人数が少なくなってくると男女のバランスも非常に悪くなります。そういう中で育ってきた子どもたちが小学校に入って集団生活を築いていくことは具合が良くない、もっと早い時期から集団の中で育ててやりたい。地域や家庭そのものの集団活動が少ないですので幼稚園の頃からもっと大きい人数の集団活動をしてくる必要があります。そういう意味で教育的な立場から見た時に必要であるというのがスタートになっております。あり方検討会でも幼児教育についてもう少し人数の多い場所を提供すべきだろうという結論が出ておりますので、また研究を重ねて行きたいと思っております。

委員長：今後の幼児数の増加は見込まれる状態ではない、実際市内はドーナツ化で少なくなっている、今後はどんどん先細りの状況であることは明らかですので、教育効果を出せる観点から検討していただきたいと思います。

教育長：委員の皆様、市民の皆様がどんなふうに考えていたり受け止めているか、時々声に出す方もいますのでチャンスがあれば聞いて判断材料の一つにしていきたいと思います。

委員長：ほかに何かございますか。

委員：津波の対策について学校も色々取り組まれることと思いますが、一番小さな幼稚園、保育園の避難路の確保と非難訓練について実際に予定があるのであればなるべく早くに行っていただきたいなと思います。それも1回に限らず年に何回かは遠足方々非難をする訓練を積み重ねていただいた方が良いのかなと、私が一番心配なのは湯川保育園、幼稚園、玖須美保育園などです。避難するといってもどこへ避難するのと思ってしまいます。この間の大震災では18mを超える大きな津波が来たということを考えると人間の想定というのを遥かに超えた震災が来る可能性がある訳です。そのために日頃どういう考え方をしておくのか是非細かく打合せをしておいてもらいたい。もし子どもたちが被害にあえば保護者は一生悔やまれることになりまして、そういうことが無い対策を取っておいてもらいたいと思います。

教育長：5月21日の日も伊東公園がメイン会場になったわけですが湯川保育園の園長も来て、自主防の方々とどこに避難するのが良いのか検討をしておりました。今のところ湯川保育園は駅、或いは駅を越えて伊東公園までと。駅の高さが10mということで、現在の伊東の状況ですと10mを見ておけば大丈夫であろうということです。湯川幼稚園については近くのビル、或いは駅まで来てしまった方が良いのかという考え方もあります。両方やってみる必要があるとは思いますが。

委員：実際何分かかるのか計っておくべきだと思います。

教育長：特に保育園の場合にはすごく大事になってくるのが負んぶ紐だと思います。一人は負んぶをしてしまう。そういう状況になるだろうと。普段の避難訓練でも小さい子がいますので階段を上ったり降りたりするのも大変な状況があります。

委員：特に感じるのは避難の準備をしていて避難するのは簡単です。避難の想定をしていない中で今から避難というときに何分かかるかが大切です。例えば園長だけ理解しておいていただいて今から避難しましょうということをやってみる必要があると思います。

委員長：もう想定外という言葉は使えなくなってしまいました。実際にあれだけのものを見ていればそこまで想定をしなければいけない。もっと具体的なものも必要かもしれません。

教育長：避難ルート確保、近所の人たちとの連絡も大事です。何も教えずに避難訓練をするのも良いですけど、何回も何回もの積み重ねが大切です。訓練しているかしていないかによって左右されるということはいつでも言われることです。

委員長：ただもう少し大きく見ると市の危機管理の方との連携をしっかりとって細かい計算等はそちらの方ができるでしょうから色々な想定をした上でやってもらいたい。また地域の人たちがこの学校には手伝いに行かなければいけない、この幼稚園には近所の人も行っていかなければいけないということも大事です。先生方だけで全部対処しろというのは厳しいのではないかと思いますので、周りを含めた避難体制を考えていかないとおそらく実際には役に立たないことになりかねません。

委員：それに心配なのは地震の後は道路も通れなくなっている可能性もあります。

教育長：そういう意味で西小学校も上に向かって逃げていくのが良いのか、そうすると外にいる子どもたち、教室の中にいる子どもたちを含めて3箇所から外に出なければならぬ。これは非常に混乱する可能性がある。それよりは2階3階に向かって逃げたほうが後の掌握もしやすいだろうということで、今西小学校でも山の方に逃げるのか階の上の方に逃げるのかをやっているところです。それと崖崩れ等も考えられるので外に出ることが必ずしも良いかどうか検討しているところです。

委員：避難路になるところに最短距離のところは道があれば出やすいですが、そういう避難路も確保しておくことも大切だと思います。湯川幼稚園も目の前に大きなビルがあってここを非難の場所に使用させていただけたらという話を聞きましたがそこには園からの出口が無いです。一度外を回っていかなければ

行けません。こういうこともしっかりしておかないといざ避難というときに
行けないということになりかねません。

委員：常識が今通用しないので、いったいどこまで想定するのか。津波を5mで想
定するのか、10mを想定するのか、30mを想定するのかによって非難経
路からなにかから全て違ってくると思います。教育委員会として子どもたちの
避難をするに当たって市の危機管理との綿密な打合せも必要だとは思いますが、
ある程度の基準を津波だったら何メートル、震度だったらいくつという
基準にして非難をする。

委員：揺れた震度によって避難場所を設定しておくというのも大切なのかも知れま
せん。

教育長：同じ場所でやっていかなければ子どもたちも混乱しますので、危機管理監
とも相談しながらやっております。今できる限りの方法でいったらどうかと
いうことについては情報を集めて判断していくしかないと思います。

委員長：ありがとうございました。他に何かございますか。

(意見なし)

意見も無いようですので、それでは本日の審議事項は、以上を持ちまして
終了します。

委員長：今後の日程について確認します。

6月定例会につきましては、6月27日(月)午前10時00分から、2階
中会議室

7月定例会につきましては、7月22日(金)午後2時30分から、4階中
会議室

委員長：以上で教育委員会5月定例会を終了します。御苦労さまでした。

以上のとおり会議の次第を記録し、ここに署名する。

委員長 田 中 智 海

委員 杉田純子

書記 村上千明